

総務企画常任委員会所管事項調査報告書

期 日	平成 30 年 5 月 8 日(火)・9 日(水)
訪問先	山口県宇部市
出席者	渡辺 貞雄 委員長、望月 真実 副委員長、 釘丸 久子 委員、遠藤 浩一 委員、高橋 知己 委員、越智 一久 委員
随行者	見上副主幹
調査項目	オープンデータ「オープンデータアプリコンテスト宇部」について
調査内容	<p>宇部市は、平成 26 年 12 月オープンデータの公開を開始し、オープンデータアプリコンテスト宇部を開催している。コンテストを開催するだけでは一過性のもので終わってしまうため、先につなげていくこと、育てていくことが課題である。コンテストの優秀作品や、よいと思われる作品は実用化に向け実証実験を行っている。3 年が経過し、企業、学生、障害者及び行政などが協働で制作したのも出品され、成果がやっと出てきたと感じている。</p> <p>今後は、データがあってもそれを分析できなければ施策の効果はかれないため、データが使える職員の育成が必要である。</p> <p>また、地域課題解決に取り組むことで、地域課題解決ができる市民、学生が育つ。高校生からは、東京に就職しても将来は宇部市に帰って来たいという声も出てきた。人材育成を通じて、定住促進の効果が出てくることからアプリコンテスト行う意味がある。</p>
主な質疑	<p>Q 予算は。 A コンテストは約 100 万円。去年は企業協賛を賞金にあてた。オープンデータ関係は約 300 万円（人件費除く）。</p> <p>Q コンテスト後の運用は。 A 第 3 回のコンテスト出品 5 作品のうち、4 作品については制作グループと実験、研究をし、実用化を目指している。</p> <p>Q ランニングコストは。 A アプリの公開を続けると、保守費用やサーバーの運用費用がかかるため、課題である。「Tokiwa GO」では、イベント時の公開であったため、宇部市である程度の費用負担をした。</p> <p>Q 公開データダウンロード数が少ないのではないか。 A データの更新が 1 年に 1 回等、更新が少ないためである。今後は、日々動いていくデータを取り入れることが課題である。更新の頻度が高いデータを公開することでダウンロード数も多くなる。</p>

総務企画常任委員会所管事項調査報告書

期 日	平成 30 年 5 月 8 日(火)・9 日(水)
訪問先	山口県宇部市
出席者	渡辺 貞雄 委員長、望月 真実 副委員長、 釘丸 久子 委員、遠藤 浩一 委員、高橋 知己 委員、越智 一久 委員
随行者	見上副主幹
調査項目	本庁舎建設について
調査内容	<p>宇部市は、現在の本庁舎建設当初から 60 年が経過しており、建て替えの検討がされている。議会からの報告や市民委員会からの提言を尊重し、平成 27 年 3 月に宇部市本庁舎建設基本構想を策定し、早急な建て替えが必要であること、「現在地及びその周辺」での建て替えが現実的であることを打ち出した。新庁舎の規模の算定については、将来の人口減少や税収減を見据えて必要最小限のスペースに抑える必要があるため、現状の実態調査に基づき算定した規模から文書量の削減や予定していた分庁舎との統合を取りやめるなど圧縮の検討を行い、基本計画段階における新庁舎の全体規模を 17,500 m²とした。また、現在の本庁舎が宇部税務署と隣接しており、合築することで基本合意に至った。これにより新庁舎の敷地は、現市庁舎、宇部市駐車場、宇部税務署及びこれらに挟まれた市道を統合した敷地となり、合築後の新庁舎の規模は宇部税務署分の面積 1,000 m²を加え、面積を約 18,500 m²とした。市制 100 周年（2021 年度）に 1 期庁舎の供用を開始するよう進めている。</p>
主な質疑	<p>Q 本庁舎建設検討市民委員会の構成は。 A 公募市民 19 人、関係団体の代表 31 人、学識経験者 1 人。</p> <p>Q 市民への説明会で提出された意見のうち反映された件数は。 A 基本計画時の提出意見 2 件のうち 0 件、基本計画時は 51 件のうち 1 件、基本設計時は 74 件のうち 4 件。</p> <p>Q 整備手法で、PFI でなく従来方式とした理由は。 A 平成 16 年度に PFI 導入可能性調査を行い、PFI による建設は困難という結果であったため。</p> <p>Q 建設費の基金計画は。 A 基金は計画的に積み立てていったわけではない。毎年 1 億円で、年度末に余裕があれば追加して積み立てた。</p> <p>Q 設計費は。 A 基本設計と実施設計 一括で約 2 億 7,000 万円。</p>